

# 鹿児島県関係中世史研究文献目録（1997～2005年）

栗林 文夫 編

本目録は鹿児島県の中世史に関係する研究文献を集成したものである。同様の視点からの文献目録には以下のようなものがある。

- ①川添昭二・恵良宏・山口隼正編「九州中世史関係論文目録」（『九州史学』第30・31号，1965年）
- ②村野守治「地方史研究の現状—九州(7)鹿児島県(上/下)—」（『日本歴史』第207号・第208号，1965年）
- ③福島金治「南九州中世史研究文献目録」  
(川添昭二編『九州中世史研究』第2輯，文献出版，1980年)
- ④福島金治「文献一覧」（同編『戦国大名論集16 島津氏の研究』吉川弘文館，1983年）
- ⑤福島金治「義弘の文献」（三木靖編『島津義弘のすべて』新人物往来社，1986年）
- ⑥安藤保他「地方史研究の現状⑧鹿児島県」（『日本歴史』第571号，1995年）中世担当は日隈正守氏。
- ⑦日隈正守「鹿児島県中世史関係文献目録（1970～1996）」  
(『鹿児島中世史研究会報』第51号，1996年)

⑧「薩摩の大名文化に関する研究文献目録稿」（中山右尚編，平成12～14年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(A)(2)研究成果報告書『近世薩摩における大名文化の総合的研究』2003年）

⑦の日隈目録の後をうけて，1997年から2005年までを取り扱う。猶，1996年以前については，日隈目録に漏れているものだけを収録した。また，本稿をなすにあたっては，『史学雑誌』の「史学文献目録（日本史）」，毎年第5号の「回顧と展望」，『日本歴史』の「雑誌論文目録」等を参照した。

著者	論文名	雑誌名・書名	発行年月
草原 新	薩摩国阿久根の阿弥陀寺	『鎮西時衆寺院』第2号	1982-
高蒲 和弘	鎮西時衆寺院『由緒縁起その外書上』(一)薩摩国『浄光明寺大概由緒書抄写』— 鎮西遊行廻国史料(二)—『旧記雑録前編』を中心として—		
河野 純徳	鹿児島より発信した聖フランシスコ・ザヴィエルの書状	鹿児島純心女子短期大学『研究紀要』第13号	1983-1
鮫島 重喜	薩摩の一向宗禁制理由に関する二・三の問題	『仏教史研究』第18号	1983-9
山口 研一	織豊期島津氏の権力構造—御一家衆北郷氏を題材として—	『史友』第17号	1985-3
野田 雄二	信濃の島津氏	『長野』第125号	1986-1
小松 寿治	「置文」にみる領主制の変化について—渋谷・島津氏を事例に—	『駒沢大学史学論集』第16号	1986-2
上田 純一	中世地方禅院の発展に関する一考察—薩摩野田感応寺の場合—	『史淵』第123輯	1986-3
根占 献一	備後氏と根占氏の間—太田亮博士の分類についての考察—	『歴史研究』第301号	1986-5

著者	論文名	雑誌名・書名	発行年月
芦川 政治	島津軍進攻と三重郷松尾城	『大分県地方史』第122号	1986-6
三木 靖	島津義弘と家督継承(1)―戦国大名島津義弘の研究―	『鹿児島短期大学研究紀要』第38号	1986-10
根井 浄	南九州の修験と仏像―大円・円龍院・日秀の造仏活動―	『あしなか』第199号	1986-12
鎌田 良一	島津忠久出生の謎	『歴史研究』第310号	1987-2
三木 靖	島津義弘と家督継承(2)―戦国大名島津義弘の研究―	『鹿児島短期大学研究紀要』第39号	1987-3
阿部 征寛	渋谷定心と五社明神社	『綾瀬市史だより』第4号	1988-9
長野 ひろ子	島津義久の娘たち	『日本歴史』第499号	1989-12
簡 典久	中世史の研究(2)「かまたの浦」「つつみ浦」について―薩摩大井文書試論―	『史誌』第33号, 東京都大田区史編さん室	1990-8
福島 金治	中世の渋谷氏の所領を歩いて	『綾瀬市史だより』第8号	1990-8
江平 望		『私版中世史考証(-)』私家版	1991-6
紙屋 敦之	梅北一揆の伝承と性格	『史観』第126号	1992-3
ディエゴ・パチェコ, (訳) 門田明	ザビエルと種子島	鹿児島県立短期大学地域研究所「研究年報」第21号	1993-3
小山 博	中世の薩琉関係について―戦国大名島津氏の領国形成と琉球貿易独占化について―	『鳴門史学』第7号	1993-8
飯沼 賢司	九州の「院」地名について	『日本歴史』第549号	1994-2
福島 金治	島津莊梅北西生庵寺永仁三年世尊寺定成扁額について	『宮崎県地域史研究』第5号	1994-11
福島 金治	中世渋谷氏関係文書の補遺	『綾瀬市史研究』第2号	1995-3
岸野 久	永禄四年島津貴久のインド宛書翰作成に関わる若干の問題	『日本歴史』第564号	1995-5
山田 雄司	中世大隅国の守公神―国府との関連から―	『年報日本史叢1995』筑波大学歴史・人類学系	1995-12
高島 緑雄	薩摩国日置北郷下地中分の研究―中分線の現地比定・西海から下司園まで―	『明治大学人文科学研究紀要』第39冊	1996-3
高島 緑雄・ 小国 浩寿・ 葛生 雄二	元亨四年「薩摩国日置北郷下地中分絵図」の現地調査―中分線・地頭所・領家政所・寺園・下司園―	『駿台史学』第97号	1996-3
五味 克夫	続郷土史点描	『千台』第24号	1996-3
五味 克夫	中世前期の南薩の道―阿多郡を中心に―	歴史の道調査報告書第4集『南薩地域の道筋』鹿児島県教育委員会	1996-3
三木 靖	中世後期の薩摩半島の街道―「道筋」及び城郭との関連で―		
日隈 正守	建部姓佐多氏系譜再考 鹿児島県中世史関係文献目録(1970~1996)	『鹿児島中世史研究会報』第51号	1996-4
中山 清美	宇宿貝塚のグスク遺構	『南九州の城郭』第2号	1996-5
江平 望		『島津忠久とその周辺―中世史料散策』高城書房出版	1996-5, 改訂版2004-6
上田 耕	「堀ノ内」地名について	『大河』第6号	1996-8
栗林 文夫	鹿児島県出土の備前焼・常滑焼・東播系須恵器について		
東 和幸	中世の鹿児島と朝鮮半島との関わりを示す考古資料の紹介		
梶浦 晋	日本現存の宋元版『大般若経』―剛中玄柔将来本と西大寺藏磧砂版を中心に―	『金沢文庫研究』第297号	1996-9
梶井 正人	天文年間に天守閣? 額娃城跡	『南九州の城郭』第3号	1996-9

著者	論文名	雑誌名・書名	発行年月
入沢 昌基	伊作島津家の成立と信濃国太田荘の役割—神代郷における相論をめぐって—	『信濃』48-9	1996-9
三木 靖	屋久島における中世城郭の研究—中世社会の変遷と、楠川城の築城を主にして—	『南日本文化』第29号	1996-9
外岡 慎一郎	鎮西探題と九州守護—鎮西使節の評価をめぐって—	『敦賀論叢』第11号	1996-12
重永 卓爾	穎娃城破却の年次と「穎娃御城取」をめぐって	『南九州の城郭』第4号	1997-2
栗林 文夫	建武3年大隅国加瀬田城合戦について(前編)		
有川 孝行	川田城跡(鹿児島県日置郡郡山町川田)		
三木 靖	鹿児島県歴史資料センター黎明館に志布志内城想定再現模型		
三木 靖 編		『鹿児島の歴史—縄文期, 戦国期, 藩政期を中心に—』鹿児島城西ロータリークラブ	1997-2
土田 充義 他		『鹿児島神宮文化財調査報告書』鹿児島神宮	1997-2
国分郷土誌編纂委員会 編		『国分郷土誌上巻』	1997-3
国分郷土誌編纂委員会 編		『国分郷土誌資料編』	1997-3
栗林 文夫	文献史料からみた舞鶴城	『本御内遺跡Ⅲ』(鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書21) 鹿児島県立埋蔵文化財センター	1997-3
川辺町郷土史編集委員会 編		『川辺町郷土史追録』	1997-3
宮下 貴浩	持鉢松遺跡の遺物から見た中世の南薩摩について—十二世紀から十五世紀を中心として—	『鹿児島中世史研究会報』第52号	1997-3
野口 実	書評 江平望著『島津忠久とその周辺中世史料散策』		
五味 克夫	川内の中世文書	『千台』第25号	1997-3
日隈 正守	大隅国建部氏系図考証(1)	『鹿児島大学教育学部研究紀要』(人文・社会科学編)第48巻	1997-3
益田 崇	三貌院近衛信忠と薩摩—文禄三年薩摩に流された貴族の紀行—	『尚古集成館講座・講演集』No11	1997-3
山本 博文	豊臣秀吉と島津四兄弟	『尚古集成館講座・講演集』No21	1997-3
五味 克夫	中世の大隅地域の道—南北朝, 楡井頼仲, 島津氏久に関して—	『歴史の道調査報告書第5集・大隅地域の道筋』鹿児島県教育委員会	1997-3
三木 靖	大隅半島の中世後期の道と城郭		
山口 隼正	日向大慈寺入寺疏と京城諸山疏・相城諸山疏	『宮崎県史研究』第11号	1997-3
大谷 敏夫	薩南学派	鹿児島大学法文学部『人文学科論集』第45号	1997-3
林 匡	授業の周辺 参—中世の横山村覚書—	『三星紀要』第10号, 鹿児島県立鹿屋高等学校	1997-3
高山郷土誌編纂委員会 編		『高山郷土誌』	1997-4
平田 信芳		『地名が語る鹿児島の歴史』春苑堂出版	1997-4
高島 緑雄	薩摩国日置北郷下地中分堺絵図	小山靖憲他編『中世荘園絵図大成』河出書房新社	1997-5

著者	論文名	雑誌名・書名	発行年月
上村 純一	鹿児島県清水磨崖仏群月輪大梵字造立動因に関する一考察	『人類史研究』 9	1997-5
栗林 文夫	建武3年大隅国加瀬田城合戦について(後編)	『南九州の城郭』 第5号	1997-6
上田 耕	絵図に登場する南九州型の城郭		
三木 靖	薩摩国向山城の縄張りに関する研究	『鹿児島短期大学研究紀要』 第60号	1997-6
小山 博	鎌倉時代後期南九州における海上交通について―一律宗寺院の展開と海上交通ルート―	『宮崎県地域史研究』 第9・10号	1997-7
山本 博文		『島津義弘の賭け一秀吉と薩摩武士の格闘』 読売新聞社	1997-8
西本 誠司	関ヶ原合戦前の島津氏と家康	『戦国史研究』 第34号	1997-8
若山 浩章	川田義朗と城郭	『南九州の城郭』 第6号	1997-9
有川 孝行	川田城の構成		
三木 靖	薩摩国伊作城の登場		
橋口 亘	南九州の城館における陶磁器出土状況の一例―知覧城の陶磁器について(平泉城との比較から)―		
栗林 文夫	中世地方寺院と地域社会―大隅国台明寺を中心に―	『歴史学研究』 第702号	1997-10
柳原 敏昭	西の境界領域と万之瀬川	村井章介他編『境界の日本史』 山川出版社	1997-11
村井 章介	中世国家の境界と琉球・蝦夷		
永山 修一	古代・中世における薩摩・南島間の交流―一夜久員の道と十二島		
小園 公雄		『南九州の中世社会』 海鳥社	1998-1
五味 克夫	『書評』 小園公雄著『南九州の中世社会』	『南日本新聞』	1998-2/22
野中 哲照	『平家物語』と硫黄島―「軽の大員」伝承をめぐって―	『薩琉文化』 第61号	1998-2
浜田 利安	(資料紹介) 徳永氏系図について	『黎明館調査研究報告』 第11集	1998-3
寺田 緑	『鹿児島県史料 旧記雑録拾遺 家わけ七』 編集余録「曾木文書」と島津義弘書状		
柳原 敏昭	中世の万之瀬川下流地域と持鉢松遺跡	『持鉢松遺跡第1次調査』 金峰町教育委員会	1998-3
宮崎県 編		『宮崎県史通史編中世』	1998-3
五味 克夫	続々郷土史点描	『千台』 第26号	1998-3
江平 望	建久末年の薩摩・大隅両国の事情―大隅国正八幡宮造営問題をめぐって―	『ミュージアム知覧紀要』 第4号	1998-3
林 匡	授業の周辺 肆―中世の申良院・細山田・小原別府・柏原別府の概観― 授業の周辺 伍―中世の下大隅郡の変遷―	『三星紀要』 第11号 鹿児島県立鹿屋高等学校	1998-3
西 光三	島津氏の一宗禁制～初期禁教原因と島津忠良	『宮崎県地域史研究』 第11号	1998-4
薩摩町郷土誌編纂委員会 編		『薩摩町郷土誌』	1998-5
高田 徹・黒田 慶一	望晋(津)城の遺構と遺物(後編)―島津氏在番の倭城―	『南九州の城郭』 第8号	1998-6
川内市歴史資料館		『平成10年度夏季特別展「新田神社宝物展」展示解説書』 川内市歴史資料館	1998-7
江平 望	『鎌倉遺文』と島津家文書―特に無年号および収録重複文書について―	『鎌倉遺文研究』 第2号	1998-9
宮下 貴浩	鹿児島県持鉢松遺跡と出土陶磁器	『貿易陶磁研究』 No.18	1998-9

著者	論文名	雑誌名・書名	発行年月
東京大学史料編纂所 編		『「入来文書」の世界』〈第32回史料展覧会列品目録〉	1998-11
垂水市史編集委員会 編		『垂水市史上巻(改訂版)』	1998-12
白川 哲郎	鎌倉後期の国衙・知行国主・幕府	大阪大学文学部日本史研究室編『古代中世の社会と国家』〈大阪大学文学部日本史研究室創立50周年記念論文集上巻〉清文堂出版	1998-12
元田 信有	交易の証 倉木崎海底遺跡	黎明館開館15周年記念特別展図録『海洋国家・薩摩—薩摩に鎖国はなかった—』鹿児島県歴史資料センター黎明館	1999-2
栗林 文夫	持鉢松遺跡		
上田 耕	知覧城と貿易陶磁器		
重久 淳一	弥勒院跡		
永山 修一	奈良・平安時代の薩摩国司—その職務と生活—	『千台』第27号	1999-3
日隈 正守	新田神社関係史料について		
黒嶋 敏	竹と隼人, そして天皇—大隅国台明寺文書を読む—	『青山史学』第17号	1999-3
江平 望	市来崎氏庶流友田家文書について—とくに益山荘および知覧院関係史料として—	『ミュージアム知覧紀要』第5号	1999-3
林 匡	授業の周辺 陸—中世の大隅半島中央部—	『三星紀要』第12号, 鹿児島県立鹿屋高等学校	1999-3
	授業の周辺 漆—隈江氏覚書—		
伊藤 幸司	中世後期の臨済宗幻住派と対外交流	『史学雑誌』第108編第4号	1999-4
黒川 高明	源頼朝の疑偽文書に関する二、三の考察	『鎌倉遺文研究』第3号	1999-4
増田 勝機		『薩摩にいた明国人』高城書房	1999-4
上田 耕	知覧城跡の大空堀, 堀底を確認	『南九州の城郭』第10号	1999-5
新名 一仁	永享・文安の薩摩国「国一揆」について—薩摩国山北国人の反島津闘争—	『九州史学』第122号	1999-5
徳永 和喜	戦国期島津氏の外交文書書式について	『会誌歴史地名通信』第24号	1999-6
五味 克夫	菱刈本城城主考	『南九州城郭研究』創刊号	1999-6
堂込 秀人	中世南九州の堅穴建物跡		
猿渡 稔	帖佐平山城跡を訪れて		
有川 孝行	川田城跡(鹿児島県日置郡山町川田)		
三木 靖	奄美の中世城郭について		
山田 尚二		『キリスト教伝来と鹿児島—フランシスコ・サビエル上陸450周年記念出版—』斯文堂株式会社出版部	1999-7
原口 泉 他		『鹿児島県の歴史』山川出版社	1999-8
高梨 修	サンゴ礁の島に築かれた城郭(前編)—奄美大島名瀬市の城郭遺跡群—	『南九州の城郭』第11号	1999-9
坂上 康俊 他		『宮崎県の歴史』山川出版社	1999-9
山口 隼正	入来文書と朝河貫一	『朝河貫一研究会ニュース』No.38	1999-10
柳原 敏昭	中世前期南薩摩の湊・川・道	藤原良章他編『中世のみちと物流』山川出版社	1999-11
小林 一岳	地域紛争からみた南北朝の「戦争」	『歴史学研究』第730号	1999-11

著者	論文名	雑誌名・書名	発行年月
永山 修一	シンポジウムの開催に当たって	金峰町歴史シンポジウム『万之瀬川から見える日本・東アジア—阿多忠景と海の道—』 金峰町歴史シンポジウム実行委員会事務局	1999-12/ 4・5
村井 章介	鬼界島考—中世国家の西境—		
宮下 貴浩	持鉢松遺跡・小園遺跡について		
中村 和美	持鉢松遺跡二次調査以降について		
柳原 敏昭	中世前期の万之瀬川下流域		
江平 望	阿多忠景について		
山本 信夫	中世陶磁器—金峰町出土の焼き物から追求する南海地域の貿易・流通		
市村 高男	湊の問題—湊の立地と持鉢松遺跡—		
大庭 康時	博多との比較		
元田 信有	倉木崎海底遺跡の調査報告		
大庭 康時	集散地遺跡としての博多	『日本史研究』第448号	1999-12
柳原 敏昭	中世前期南九州の港と宋人居留地に関する一試論		
清水 周作・ 佐藤 亜聖・ 宇田 員将	鹿児島県大隅町日輪城（恒古城）の発掘調査	『南九州の城郭』第12号	1999-12
常田 和彦	伊作城跡		
高梨 修	サンゴ礁の島に築かれた城郭（後編）—奄美大島名瀬市の城郭遺跡群—		
海老沢 哀	荘園公領制の地域的偏差—南九州三ヵ国に展開する島津荘を例として— 「島津荘内薩摩方地頭守護職」と薩摩国の荘園公領制	同『荘園公領制と中世村落』 校倉書房	2000-2
知覧町教育委員会	国指定史跡知覧城跡—蔵之城跡の発掘調査—	『南九州の城郭』第13号	2000-2
中世諸国—宮制 研究会 編		『中世諸国—宮制の基礎的研究』 岩田書院	2000-2
山本 博文 編		『島津家文書目録3』 東京大学史料編纂所	2000-2
林 匡	〈『鹿児島県史料—旧記雑録拾遺』編さん余録〉 鹿児島県史料『旧記雑録』未収載文書補遺	『黎明館調査研究報告』第13 集	2000-3
栗林 文夫	中世南九州の熊野信仰について	『鹿児島史学』第45号	2000-3
小園 公雄	中世大隅国祢寝院北俣の支配体制と農業経営について		
輝北町郷土誌編 纂委員会 編		『輝北町郷土誌』	2000-3
江平 望	島津忠久の伊勢国内の所領について	『ミュージアム知覧紀要』第 6号	2000-3
	島津忠久の三州下向について	『知覧文化』第37号	2000-3
日隈 正守	薩摩国—宮新田八幡宮の成立	『千台』第28号	2000-3
村井 章介	鬼界が島考—中世国家の西域—	『別府大学アジア歴史文化研 究所報』第17号	2000-3
山口 準正	薩摩渋谷氏研究の—視点—人米文書と薩摩渋谷氏—	『東京大学史料編纂所研究紀 要』第10号	2000-3
中村 和美	持鉢松遺跡	須藤功他編『日本民俗写真大 系⑤・南方世界との交流』日 本図書センター	2000-4
江平 望	島津忠久守護補任状の疑問点について	『鎌倉遺文研究』第5号	2000-4
平木場 秀男	強者どもの拠り所—中世山城— 〈教科書にのらない 鹿児島島の遺跡8〉	『鹿児島新報』	2000-4/30

著者	論文名	雑誌名・書名	発行年月
堀内 寛康	薩摩国伊作荘日置北郷下地中分絵図—伊作島津氏の絵図—	奥野中彦編『荘園絵図研究の視座』東京堂出版	2000-5
村井 章介	島津史料からみた泗川の戦い—大名領国の近世化にふれて—	『歴史学研究』第736号	2000-5
福永 修一	南の島に緊張が走る—なぞに包まれた南島のグスク<教科書にのらない鹿児島遺跡9>	『鹿児島新報』	2000-5/7
川口 雅之	中世びとの生活—中世の集落から—<教科書にのらない鹿児島遺跡11>	『鹿児島新報』	2000-5/21
栗林 文夫	考古学から見た神社仏閣<教科書にのらない鹿児島の遺跡12>	『鹿児島新報』	2000-5/28
上床 真	アジアに開ける交易<教科書にのらない鹿児島の遺跡13>	『鹿児島新報』	2000-6/4
宮之城町史編纂委員会 編		『宮之城町史』	2000-6
八尋 和泉	隼人塚石造四天王像考	『鹿児島考古』第34号	2000-7
柳原 敏昭	万之瀬川から見える日本・東アジア—持鉢松遺跡と唐坊—	『町報金峰』433号	2000-8
ザビエル渡来450周年記念シンポジウム委員会 編		『薩摩と西欧文明』鹿児島純心女子大学	2000-8
柳原 敏昭	万之瀬川から見える日本・東アジア—阿多忠景と万之瀬川下流地域—	『町報金峰』434号	2000-9
鹿児島県歴史資料センター黎明館 編		『黎明館企画特別展奇跡の至宝「島津家文書」—薩摩七〇〇年の歴史が見える—』	2000-9
吉村 昌輝	鎌倉期鎮西守護の裁判権について—所務沙汰裁判権を中心として—	『法学政治学論究』第46号	2000-9
日隈 正守	『書評と紹介』小園公雄著『南九州の中世社会』	『日本歴史』第629号	2000-10
柳原 敏昭	万之瀬川から見える日本・東アジア—中世観音寺と道—	『町報金峰』435号	2000-10
秋山 哲雄	北条氏一門と得宗政権	『日本史研究』第458号	2000-10
上田 純一		『九州中世禅宗史の研究』文献出版	2000-10
菱刈 隆永	菱刈文書の出現	『日本史教育研究』第151号	2000-10
栗林 文夫	万之瀬川下流域をめぐる最近の研究情況—考古学を中心に—	『大河』第7号	2000-10
山川町 編		『山川町史(増補版)』	2000-10
柳原 敏昭	万之瀬川から見える日本・東アジア④—中世観音寺をめぐる人々—	『町報金峰』436号	2000-11
岩山 浩章	都於郡城覚書	『南九州城郭研究』第2号	2000-11
川元 茂信	「南郷城」と桑波田氏		
上田 耕	南九州の拠点城郭の一例—串木野城の城域と構成—		
五味 克夫	菱刈本城城主考(補正)		
三木 靖	中世城郭と住民		
黒嶋 敏	琉球王国と中世日本—その関係の変遷—	『史学雑誌』第109編第11号	2000-11
三木 靖	薩摩国の中世城郭研究 I	『鹿児島短期大学研究紀要』第67号	2000-11
日隈 正守	治暦五年正月二十九日付藤原頼光所領配分帳案に関する一考察	『日記雑録月報』22	2001-1

著者	論文名	雑誌名・書名	発行年月
知覧町教育委員会	知覧城本丸跡の発掘調査—虎口周辺を中心として—	『南九州の城郭』第16号	2001-1
日隈 正守	新田八幡宮の阿多郡支配に関する一考察	『鹿児島大学教育学部研究紀要』〈人文・社会科学編〉第52巻	2001-3
日隈 正守	新田八幡宮の社領形成過程	夕葉会編『道標・高瀬計征先生退職記念文集』	2001-3
日隈 正守	源平合戦と新田神社	『千台』第29号	2001-3
石上 英一	〈黎明館特別講演会〉演題「古奄美諸島社会史—十四世紀—十六世紀の奄美—	『黎明館調査研究報告』第14集	2001-3
濱田 利安	鉄砲伝来の経緯について二・三の考察—徳永氏系図「二十五代祐家譜」を中心に—		
野田 武志	薩摩国分寺領相論について(一)	『国学院法研論叢』28	2001-3
江平 望	島津家文書大江元執筆の源頼朝袖判下文について	『ミュージアム知覧紀要』第7号	2001-3
重久 淳一	鹿児島神宮社家屋敷跡の調査—桑幡家・留守家屋敷跡—	『南九州の城郭』第17号	2001-5
江平 望	島津家文書源頼朝関係文書の筆跡について	『鹿児島中世史研究会報』第53号	2001-6
向山 勝貞	守護狩—島津氏の諏訪神社勧請の背景—		
多田 誠	鎌倉時代九州における使節遵行制度の変遷について	上横手雅敬編『中世公武権力の構造と展開』吉川弘文館	2001-8
永山 修一	古代—中世の日本と南島	『みなみの手帖』No.94	2001-9
菱刈 隆永	菱刈町再訪	『日本史教育研究』第153号	2001-10
三木 靖	薩摩国の中世城郭研究Ⅱ	『鹿児島国際大学短期大学部研究紀要』第68号	2001-11
新名 一仁	嘉吉・文安の島津氏内訌—南九州政治史上の意義—	『史学研究』第235号	2002-1
柳原 敏昭	唐坊についての補説	『旧記雑録月報』23	2002-1
菱刈 隆永	菱刈三代の石塔	『日本史教育研究』第154号	2002-2
鶴嶋 俊彦	嶋津氏築城の花山城	『南九州の城郭』第18号	2002-2
栗林 文夫	松尾城について	『松尾城跡』〈鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(初)〉, 鹿児島県立埋蔵文化財センター	2002-3
伊集院町誌編集委員会 編		『伊集院町誌』	2002-3
栗林 文夫	文献史料からみた時吉城	『田原・時吉地区 梁詒・黒田遺跡(古城跡)』宮之城町埋蔵文化財発掘調査報告書(1), 宮之城町教育委員会	2002-3
山口 隼正	入来院家所蔵平氏系図について(上)	『長崎大学教育学部社会科学論叢』第60号	2002-3
福島 金治	西国の霜月騒動と渋谷氏	『綾瀬市史研究』第8号	2002-3
日隈 正守	薩摩国における荘園公領制の形成過程	『鹿児島大学教育学部研究紀要』〈人文・社会科学編〉第53巻	2002-3
柳原 敏昭	二階堂氏の所領と海上交通—阿多北方の位置づけを考えるためのノート	入間田宣夫編『日本・東アジアの国家・地域・人間—歴史学と文化人類学の方法から—』入間田宣夫先生還暦記念論集編集委員会	2002-3
河野 聚	大友島津の抗争と大友布陣について	『宮崎県地方史研究紀要』第28輯	2002-3

著者	論文名	雑誌名・書名	発行年月
日隈 正守	蒙古襲来と新田八幡宮	『千台』第30号	2002-3
三木 靖	薩摩国の中世城郭研究Ⅲ	『鹿児島国際大学短期大学部研究紀要』第69号	2002-3
永山 修一	キカイガシマの古代・中世—〈南〉の境界領域へのまなざし	『東北学』第6号	2002-4
山口 隼正	入来院家所蔵平氏系図について(下)	『長崎大学教育学部社会科学論叢』第61号	2002-6
北島 万次	秀吉の朝鮮侵略と島津氏そして民衆	同『壬辰倭乱と秀吉・島津・李舜臣』校倉書房	2002-7
服部 英雄	犬追物を演出した河原ノ者たち—犬の馬場の背景—	『史学雑誌』第111編第9号	2002-9
柳原 敏昭	モンゴル襲来と近代の地域社会—十五年戦争期の鹿児島県を事例として—	『日本歴史』第652号	2002-9
菱刈 隆永	三度目の菱刈町・はじめての人吉	『日本史教育研究』第156号	2002-10
知覧町郷土誌編纂委員会 編		『知覧町郷土誌 追補改訂版』	2002-11
栗林 文夫	菊池武夫と鹿児島	『日本歴史』第654号	2002-11
松下志朗・下野敏見 編		『鹿児島の湊と薩南諸島』〈街道の日本史55〉吉川弘文館	2002-11
三木 靖	薩摩国の中世城郭研究Ⅳ	『鹿児島国際大学短期大学部研究紀要』第70号	2002-11
下鶴 弘	国分清水城跡見学記	『南九州の城郭』第19号	2002-12
山本 賢司	戦国末期紀の濠周辺—南九州の交易・交流と海上交通	『和歌山地理』第22号	2002-12
橋本 政宣		『近世公家社会の研究』吉川弘文館	2002-12
井上 聡	御家人と荘園公領制	五味文彦編『日本の時代史 8 京・鎌倉の王権』吉川弘文館	2003-1
日隈 正守	年月日不詳大隅国正八幡宮所領目録断簡について	『旧記雑録月報』24	2003-1
近藤 成一	鎌倉時代の社会と領主制	同編『日本の時代史 9・モンゴルの襲来』吉川弘文館	2003-2
永山 修一	特輯「11～15世紀における南九州の歴史的展開」に寄せて	『古代文化』第55巻第2号	2003-2
柳原 敏昭	平安末～鎌倉期の万之瀬川下流地域—研究の成果と課題—		
大庭 康時	博多遺跡群の発掘調査と持鉢松遺跡		
市村 高男	11～15世紀の万之瀬川河口の性格と持鉢松遺跡—津湊泊・海運の視点を中心とした考察—		
宮下 貴浩	山岳寺院と港湾都市の一類型—小齒遺跡と観音寺の調査を中心として—		
中村和美・栗林文夫	持鉢松遺跡(2次調査以降)・芝原遺跡・渡畑遺跡について		
鹿毛 敏夫	一五・一六世紀大友氏の対外交渉	『史学雑誌』第112編第2号	2003-2
内之浦町誌編纂委員会 編		『内之浦町誌』	2003-3
日隈 正守	万得(徳)領再考	『鹿児島大学教育学部研究紀要』〈人文・社会科学編〉第54巻	2003-3
隼人町教育委員会 編		『桑橋氏館跡—第3次調査—』	2003-3
吹上郷土誌編纂委員会 編		『吹上郷土誌通史編一, 自然考古古代中世』	2003-3

著者	論文名	雑誌名・書名	発行年月
吹上郷土誌編纂委員会 編		『吹上郷土誌資料編』	2003-3
栗林 文夫	伝島津歳久着用の鎧にある年月日は何か?	『黎明』 Vol.20 No.4	2003-3
山本 信夫	12世紀前後陶磁器から見た持鉢松遺跡の評価—金峰町出土の焼き物から追求する南海地域の貿易・流通—	『古代文化』 第55巻第3号	2003-3
江平 望	阿多忠景について		
栗林 文夫	南朝「忠臣」の顕彰について—記念碑を素材として—	『黎明館調査研究報告』 第16集	2003-3
日隈 正守	新田神社の社家について—中世の成立期を中心に—	『千台』 第31号	2003-3
新名 一仁	文安元年日向国南部国人一揆の意義—守護島津氏・庄内国人による山東進出とその挫折—	『市史編さんだより・都城地域史研究』 第9号	2003-3
新名 一仁	日向国人権山氏の成立過程とその特質—室町期島津氏「御一家」の由緒と家格—	『宮崎県地域史研究』 第16号	2003-3
千田 嘉博	南九州における戦国・織豊期城下町と権力	『国立歴史民俗博物館研究報告』 第103集	2003-3
江平 望	薩摩の白拍子について	『ミュージアム知覧紀要・館報』 第9号	2003-3
金井 静香	中世末期における近衛家と島津氏の交流—近衛政家・尚通・種家—	平成12~14年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(A)(2)研究成果報告書『近世薩摩における大名文化の総合的研究』	2003-3
日隈 正守	大隅国正八幡宮に関する一考察—中世「桜島」考—		
伊藤 一美	「渋谷定心置文」にみる御家人役と一族規範	『藤沢市文化財調査報告書』 第38号	2003-3
三木 靖	薩摩国の中世城郭研究V	『鹿児島国際大学短期大学部研究紀要』 第71号	2003-3
山本 博文	島津家文書の内部構造の研究	『東京大学史料編纂所研究紀要』 第13号	2003-3
岸田 裕之	統合へ向かう西国地域	有光友学編『戦国の地域国家』〈日本の時代史12〉吉川弘文館	2003-5
永山 修一	薩摩国分寺の成立と展開	笹山晴生編『日本律令制の展開』吉川弘文館	2003-5
伊藤 幸司	大内氏の琉球通交	『年報中世史研究』 第28号	2003-5
上田 耕	南九州の城郭と埋葬—知覧城跡の発掘調査事例から—	小野正敏・萩原三雄編『戦国時代の考古学』高志書院	2003-6
山口 隼正	中世九州禅院入寺関係未刊史料をめぐって	『長崎大学教育学部社会科学論叢』 第63号	2003-6
三木 靖・向山 勝貞 編		『薩摩と出水街道』〈街道の日本史54〉吉川弘文館	2003-7
森本 正憲		『中世成立史の基礎的研究—九州の視座から—』文献出版	2003-9
神野 潔	関東寄進状について	『法学政治学論究』 第58号, 慶応義塾大学大学院法学研究科	2003-9
大山 智美	戦国期島津氏の「領域」支配—天草・八代を中心に—	『古麓能寺遺跡・古麓城下遺跡』〈熊本県文化財調査報告書〉 第216集, 熊本県教育委員会	2003-9
喜舎場 一隆	あや船再考	『海事史研究』 第60号	2003-9
菱刈 隆永	史料紹介菱刈文書より「高麗式度之三重立」	『日本史教育研究』 第158号	2003-10
久保 智康	鏡の製作と流通をめぐる諸問題	『考古学ジャーナル』 No.507	2003-10

著者	論文名	雑誌名・書名	発行年月
今吉 弘 編		『鹿児島県の不思議事典』 新人物往来社	2003-11
大窪 祥晃	中世山城「志布志城」の概略	『南九州の城郭』 第21号	2003-12
重久 淳一	留守氏館跡の調査		
永山 修一	古代・中世併行期の奄美	松本泰丈・田畑千秋編『奄美復帰50年・ヤマトとナハのはざままで』〔現代のエスプリ〕別冊	2004-1
清水 紘一	日欧交渉の起源・補遺—八板氏系図・徳永氏系図—	『外政史研究』 第3号	2004-1
本郷 恵子		『中世人の経済感覚—『お買い物』からさぐる』 日本放送出版協会	2004-1
金井 静香	島津荘の領有体系における近衛家—近衛家所領目録を中心に—	『旧記雑録月報』 25	2004-1
千田 嘉博	戦国期の城下町構造と基層信仰	『国立歴史民族博物館研究報告』 第112集	2004-2
村井 章介	鉄砲はいつ、だれが、どこに伝えたか	『歴史学研究』 第785号	2004-2
宇田川 武久	鉄砲にみる南蛮文化の到来		
田中 大喜	—門評定の展開と幕府裁判—	『歴史学研究』 第786号	2004-3
栗林 文夫	伊尻神力坊について—ある六十六部聖の生涯—	『黎明館調査研究報告』 第17集	2004-3
加藤 友康	平安時代の大隅・薩摩—人の交流と交易・情報伝達を媒介にして考える—		
山下 真一	中近世移行期における島津氏の権力編成と北郷氏	『立正史学』 第95号	2004-3
永山 修一	平安時代前半の南九州について	『宮崎県地域史研究』 第17号	2004-3
新名 一仁	北郷氏の由緒に関する基礎的考察—島津庄日向方北郷の拝領・都城築城の時期をめぐって—		
日隈 正守	新田神社の社家について—鎌倉期執印を中心に—	『千台』 第32号	2004-3
山口 隼正	『日本帝皇年代記』について—入来院家所蔵未刊年代記の紹介—	『長崎大学教育学部社会科学論叢』 第64号	2004-3
新名 一仁	康暦・永徳期の南九州情勢—無年号文書の年代比定を中心に—	『市史編さんだより・都城地域史研究』 第10号	2004-3
中村 和美	鹿児島県における荘園遺跡研究の現状	『研究紀要・年報 縄文の森から』 第2号, 鹿児島県立埋蔵文化財センター	2004-3
上床 真	鹿児島県における中世煮炊具の様相		
大根占町誌編纂委員会 編		『大根占町誌 増補・改訂版』	2004-3
ベルザー・ロブ	薩藩武芸文化探険—文亀から元禄にかけて—	『東京大学史料編纂所研究紀要』 第14号	2004-3
喜入町郷土誌編集委員会 編		『喜入町郷土誌—増補改訂版—』	2004-3
高良 倉吉	奄美喜界島の古琉球辞令書について	『日本東洋文化論集』 第10号 <琉球大学法文学部紀要>	2004-3
日隈 正守	「神代三陵志」可愛山陵項所収「新田神社文書」に関する—考察—	『鹿児島大学教育学部研究紀要』 <人文・社会科学編> 第55巻	2004-3
橋口 亘	中世港湾坊津小考	橋本久和・市村高男編『中世西日本の流通と交易』 高志書院	2004-4
渡邊 正男	「正和の神領興行法」と「入門」	『鎌倉遺文研究』 第13号	2004-4

著者	論文名	雑誌名・書名	発行年月
福島 金治	戦国島津氏琉球渡海印判状と船頭・廻船衆	代表有光友學『戦国期印章・印判状に関する総合的研究』平成12～15年度科研報告書	2004-5
日隈 正守	常見名田に関する一考察	〈平成12年度～平成15年度科学研究費補助金〉『九州諸国における中世一宮制の成立・展開過程の研究』, 研究代表者日隈正守	2004-6
山口 隼正	『日本帝皇年代記』について—入来院家所蔵未刊年 代記の紹介—(中)	『長崎大学教育学部社会科学論叢』第65号	2004-6
下甌村郷土誌編 纂委員会 編		『下甌村郷土誌』	2004-8
出水市郷土誌編 集委員会 編		『出水郷土誌上巻』	2004-9
柳原 敏昭	中世日本の北と南	歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座4・中世社会の構造』東京大学出版会	2004-9
松尾 千歳	島津義久の富隈城入城とその時代—義久家督をめぐる諸問題—	志學館大学生涯学習センター・隼人町教育委員会編『隼人学—地域遺産を未来につなぐ』南方新社	2004-9
三木 靖	薩摩国清色城の縄張について	『地域総合研究』〈鹿児島国際大学附置地域総合研究所〉第32巻第1号	2004-9
松本 一夫	鎌倉末・南北朝期における薩摩守護島津氏の被官と その特質	『古文書研究』第59号	2004-10
久保 智康	中世銅鏡の在地製作—蒲生八幡神社と勝栗神社の踏 み返し鏡をめぐる—	『鑄造遺跡研究資料2004中世・近世の鑄物生産と民俗例』鑄造遺跡研究会	2004-10
始良町歴史民俗 資料館 編		『平成16年度特別展図録越前(重富) 島津家の歴史』	2004-10
松本 一夫	南北朝期九州守護の關所地処分権について—島津氏 を中心—	『国史学』第184号	2004-11
三又たかし		『南九州の海商人たち—豪商の時代の舞台を行く—』鉦脈社	2004-11
村井 章介	日本中世の境界と領域	史学会編『歴史学の最前線』東京大学出版会	2004-11
清水 紘一	ポルトガル人の種子島初來年代をめぐる—日欧交 渉の起源・補遺—	『南島史学』第64号	2004-11
栗林 文夫	「弁分」の歴史的意義—南北朝期南九州土地制度史 の一齣—	『日本歴史』第679号	2004-12
中島 楽章	十六・十七世紀の東アジア海域と華人知識層の移動 —南九州の明人医師をめぐる—	『史学雑誌』第113編第12号	2004-12
日隈 正守	薩摩国における国一宮の形成過程	一宮研究会編『中世一宮制の歴史的展開上：個別研究編』岩田書院	2004-12
福島 金治	中世後期大隅正八幡宮社家の存在形態		
井原 今朝男	中世の国衙寺社体制と民衆統合儀礼	一宮研究会編『中世一宮制の歴史的展開下：総合研究編』岩田書院	2004-12
大賀 郁夫	近世期における島津忠久の頼朝落胤「伝説」について	『薩摩藩法令史料集月報』2	2005-1
柳原 敏昭	小世万之瀬川下流地域の様相について—近世絵図を 手がかりとして—	羽下徳彦編『中世の地域と宗教』吉川弘文館	2005-1

著者	論文名	雑誌名・書名	発行年月
佐藤 秀孝	玉山玄提の入元帰国と日向大慈寺の創建	『竹貫元勝博士還暦記念論集・禪とその周辺学の研究』永田文昌堂	2005-1
日隈 正守	八幡新田宮神宮寺考	『旧記雑録月報』26	2005-1
永井 哲雄	日向国	網野善彦他編『講座日本荘園史10, 四国・九州地方の荘園付総索引』吉川弘文館	2005-2
日隈 正守	大隅国		
小園 公雄	禰寝院		
江平 望	薩摩国		
栗林 文夫	宇留島修験資料の中世棟札について	『黎明』Vol.22 No.4	2005-3
日隈 正守	八幡新田宮領・五大院領における支配機構	『鹿児島大学教育学部研究紀要』<人文・社会科学編>第56巻	2005-3
串良町教育委員会 社会教育課編		『串良町郷土誌』	2005-3
栗林 文夫	坊津一乗院の成立について	『黎明館調査研究報告』第18集	2005-3
林 匡	戦国期の犬隅国守護代本田氏と近衛家		
上床 真	鹿児島県における中世墓研究の現状と課題—発掘調査で見えられた墓を中心として—	『研究紀要・年報雑文の森から』第3号, 鹿児島県立埋蔵文化財センター	2005-3
山口 隼正	『日本帝皇年代記』について—入来院家所蔵未刊年代記の紹介—(下)	『長崎大学教育学部社会科学論叢』第66号	2005-3
江平 望	鎮西下向御家人鮫島四郎宗家について	『ミュージアム知覧紀要・館報』第10号	2005-3
上田 耕・ 上之 真太郎	寺師殿城跡の歴史と構造について		
山下 正盛		『永吉(村)郷土史』私家版	2005-4
海老澤 衷	島津荘内薩摩方伊作荘・同日置北郷の「下地中分」について	『鎌倉遺文研究』第15号	2005-4
松本 一夫	天皇方としての島津貞久	『日本歴史』第684号	2005-5
高尾野町郷土誌 編集委員会 編		『高尾野町郷土誌』	2005-6
栗林 文夫	「入来院氏庶流系図」・「清色亀鑑」作成の契機	『季刊ぐんしょ』再刊第69号	2005-7
栗林 文夫	根来寺と坊津一乗院について	『和歌山地方史研究』第49号	2005-7
栗林 文夫	肝付兼重の位記について	『黎明』Vol.23 No.2	2005-8
朝河 貫一 著, 矢吹 普 訳		『The Documents of Iriki入來文書』柏書房	2005-8
廣田 浩治	中世前期武士団の結合構造—平安期「侍」から鎌倉御家人武士へ—	松本寿三郎先生・工藤敬一先生古稀記念論文集刊行委員会編『熊本大学日本史研究室からの洞察』熊本出版文化会館	2005-8
久保 智康	神社伝来鏡からみた中世銅鏡の生産と流通	五十川伸矢編『新領域創生研究部門A01-2—日本中世における銅鉄の金属生産とその流通に関する研究・中間報告』	2005-9
栗林 文夫	入來文書の里—薩摩川内市入來町	『季刊古都』第47号, 財団法人古都保存財団	2005-9
松尾 千歳		『鹿児島歴史探訪』高城書房	2005-10
坊津歴史資料センター輝津館編		『坊津—さつま海道』	2005-10
上原 兼善	大名茶の形成と島津氏	『日本史研究』第518号	2005-10

著 者	論 文 名	雑誌名・書名	発行年月
鹿児島県高等学校歴史部会 編		『歴史散歩46鹿児島県の歴史散歩』山川出版社	2005-10
松山町郷土史編纂委員 編		『松山町郷土史総合版』	2005-12

(本館 学芸専門員)